

会 議 録

会 議 名	2025 年度第1回東浦町子ども・若者会議	
開 催 日 時	2026 年2月3日(火)午前 10 時 00 分から午前 11 時 40 分	
開 催 場 所	東浦町役場 合同委員会室	
出 席 者	委 員	原田委員(会長)、石原委員(副会長)、恒川委員、長坂委員、石川委員、山崎委員、間瀬委員、中西委員、山田委員
	事務局	ふくし文化部長、子ども未来部次長、学び支援課長、教育課長、子育て支援課長、子育て支援課指導保育士、ひがしうら総合子育て支援センター所長、健康課長、学び支援課生涯学習係長、子育て支援課保育係長、子育て支援課子ども応援係長、子育て支援課保育係主事
欠席者	岡本(嘉)委員、竹内委員、島村委員、友永委員、鈴木委員、岡本(貴)委員、吉田委員、水野委員	
議 題 (公開又は非公開の別)	(1)東浦町子ども計画の修正について(公開) (2)東浦町子ども計画実施事業総括について(公開)	
傍聴者の数	0名	
報告内容 (概要)	(1)東浦町子ども計画の修正について (2)東浦町子ども計画実施事業総括について ※事務局からの報告及び委員からの意見等は別紙のとおり。	
備 考	議題前:①子育て支援課長より資料確認 ②会長挨拶	

別紙 報告内容(概要)

事務局	<p><u>議題1 東浦町こども計画の修正について</u> 東浦町こども計画の修正について事務局より説明。</p>
委員	<p><質疑意見等> こども誰でも通園制度について、利用者がいる場合は保育士が追加で配置されるのか。</p>
事務局	<p>人員配置基準が決められており、誰でも通園制度のための保育士1名を、石浜保育園に配置することになっている。</p>
委員	<p>普段から保育園に通っていない、慣れていない子どもが利用することになる。例えば0歳児3人に対し、保育士1人では人手が足りないのでは。</p>
事務局	<p>現状でも保育士の負担は大きいですが、こども誰でも通園制度は来年度から給付事業となるため、市町村は義務として実施しなければならない。集団に慣れていない子どもは、最初は泣いてばかりかもしれない。1日あたりの利用時間が 2.5 時間というのは、子どもの負担も考慮した上で制度設計を行った。</p>
委員	<p>1回 750 円とあるが、その場で現金で支払うのか。</p>
事務局	<p>1か月分をまとめて現金で支払ってもらう。</p>
委員	<p><u>議題2 東浦町こども計画実施事業総括について</u> 東浦町こども計画実施事業総括について事務局より説明。</p> <p><質疑意見等> 参加希望者がいなかったため実施されなかった事業について、なぜ希望者がいなかったのか、実施時期がよくなかったのか、そもそも事業自体が必要とされていないのか等を検証し、事業をより充実させてほしい。</p>
委員	<p>なかよし学園での託児ボランティアについて、ボランティア団体の活動休止により派遣の回数が減少した、と記載されている。ボランティア頼みではなく仕事として人員を確保できないのか。</p>
事務局	<p>1点目について、参加希望者がいなかったため実施されなかった事業について、認定こども園等の広域利用のように、受け入れの体制は整えているが、数年に1~2回問い合わせがある程度の事業もある。また、例えば未就園児健康相談のように、事業の周知は十分であるか、実施時期は適切か等を所管課で検討し、必要に応じてスクラップするなどの転換は必要だと考えている。そういったことも踏まえ、来年度からは評価の仕方を変更させていただく。</p>

	2点目のなかよし学園について、保護者だけでの情報交換や交流の際に、卒園児の保護者や事業所の方にボランティアとして来ていただいている。ボランティアという点は再度確認し、今後について検討する。
委員	母子寡婦福祉資金の貸付については県の制度ということだが、東浦町民は全く利用していないのか。
事務局	町が申請窓口になっているが、この5年程では1件も申請がなかった。
委員	子育てネットワークの構築で、子育て支援者情報共有会議が参加者都合で当日中止になっただけでも C 評価になってしまうのか。
事務局	総合子育て支援センターとあしたもあそぼうという子育て支援センター、東ヶ丘幼稚園の3者で会議予定だったが、東ヶ丘幼稚園でトラブルがあり、改めて日程を設けることもできなかった。実施できなかったので C 評価とした。
事務局	確かに各課で評価にばらつきがある。来年度については、何か他の要因で開催できなかった場合の評価は「―」に統一したい。また、その評価とした理由も記載する。
委員	評価の際に、惜しかったので D 評価ではなく C 評価に上げる、という考え方ではなく、評価がよくなっても、事業をよりよくするための改善点を見つけることができたというポジティブな捉え方をするとよいのでは。 また、ひきこもり対策事業で月2回「居場所」を開催し、子どもや若者、家族が集える場を提供した、とあるが、参加者の実績は。
事務局	参加者の実績について、来年度以降は照会時に社会福祉協議会に記載を依頼する。
委員	学生ボランティア事業で「町内全児童を対象に実施した」とあるが、中学生を対象には実施していないのか。
事務局	今年度の夏休みから町内全児童を対象に実施したため、今回のような表記とした。 中学生については、昨年度までは東浦中学校の生徒を対象に実施したが、今年度からは全中学校を対象にして、「わくわく数学教室」を実施した。資料の追記をお願いしたい。中学生の実績としては、東浦中学校33人、北部中学校12人、西部中学校1人の合計46人の生徒が参加した。
委員	ひきこもり対策事業で、やはり利用人数等の具体的な実績を記載してほしい。全体的に A 評価が多いが、どの事業も今後に向けての反省や改善は必要であるため、「場を提供した」のような記載ではなく、評価できるような実績を記載するとよい。
事務局	課題のない事業というものは存在しないため、来年度の照会時にはもっと踏み込んだ記載の仕方になるよう各課に依頼する。
委員	不登校について、学校に入る前の段階でのつまづきが将来的な不登校に繋がっていく

	<p>こともあるのではないか。外国人政策の中で、プレスクールというものが出てきている。2025年の12月時点では、外国人として登録されている人数は1830人である。小学校に入る前に日本語教育をし、日本語を理解した上で小学校に入学するということは実施されているのか。また、保育園から小学校に入るときに、保育園では遊びを中心とした楽しい活動をしていたのが、小学校に入ることによって学習中心の活動になっていくという、いわゆる小1の壁の問題もある。そのあたりの対策はあるか。</p>
事務局	<p>日本語適応教室として、外国籍の児童生徒が日本語を学びながら、教育を受ける場を東浦中学校と石浜西小学校に設置している。保育園から小学校への移行については、外国籍に限らず、発達が気になる場合には、小学校入学前に支援級や特別支援学校を選択肢として検討し、保育園や小学校の担当者が保護者の意見を聞きながら、医師の助言も参考にしている。プレスクールに関しては現在実施できていないが、フリースクールやふれあい教室、さらに今年度から中学校内に設置した校内教育支援センターなどを活用し、まずは児童生徒が学校に来やすい環境を整えるとともに、クラスで過ごしやすい環境作りを進めている。</p>
事務局	<p>保育園では、石浜西保育園にブラジル人やベトナム、フィリピン等の外国籍の子どもが多い。石浜西保育園にはポルトガル語の通訳を配置している。ベトナムやフィリピンの場合、保育園にある通訳機を使って話をする。子どもたちは吸収が速く、遊びや保育士との関わりの中で少しずつ日本語を習得しているため、改めてプレスクールは実施していない。</p> <p>年度初めの4月には、教育課の指導主事や相談員が各保育園を回って子どもについての情報共有をしている。園児の保護者の中で、小学校への入学が不安な方は、小学校の見学も行っている。園によっては、年長児が小学校へ給食の様子を見に行かせてもらったり、小学生が園に遊びに来てくれたりもしている。</p>
委員	<p>ボランティアで子育て支援や地域の見守りをしている団体だが、ボランティアの人員は減っていく一方。政策的にいろんなことをやってボランティアに協力を求めるが、ボランティアの人がいないから実施できなかったと評価されてしまう。ボランティア保険にも自費で入らないといけないので入っていない。政策を進めていくのであれば、ボランティアの養成にも力を入れてほしい。有償ボランティアもあるが、私たちは無償で実施している。</p>
委員	<p>ドライバーのボランティア募集があり、老人クラブに声をかけたが断られた。保険はどうするのかという話も出た。ボランティアをお願いするのであれば、保険等の整備はしてもらえるとよい。</p>
事務局	<p>学校では全ての小中学校にコミュニティ・スクールを設置しており、地域の方々と協力しながら学校運営を行っている。コミュニティ・スクール推進にあたっては、ボランティアの方々にご協力をいただき、学校整備や教育関連のイベントなどを実施する際に手伝っていただく形を取っている。なお、ボランティアに参加される方々への保険については、教育委員会で予算を確保している。</p> <p>ボランティアに参加される理由としては、ご自身の子どものためであったり、かつて自分の子どもが在校生だった際にお世話になったことへの恩返しといったモチベーションが</p>

	<p>一つと考えられる。一方で、なかよし学園における託児ボランティアでは、他人の子どものお世話に対する心理的負担や、直接的な関わりがないという点が課題として挙げられる。この課題については、今後さらに協議を進めていく。</p>
委員	<p>不登校の数は減っておらず、インターネット上での犯罪に近いような行為等、昔に比べると問題が表面化していない。子どもだけの問題ではなく、家庭の問題等も重なっており、学校の担当がなかなか関与できない部分でもある。そこを問題解決につなげるのがスクールソーシャルワーカーだと思われる。社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーも学校の中に入ることができるが、スクールソーシャルワーカーの配置について確認したい。現在は退職した園長や校長が子どもと親の相談員となっているが、例えば資格を持っているがあまり経験のない若い人にソーシャルワークは難しいのでは。今後スクールソーシャルワーカーを育成していくような展望等はあるか。</p>
事務局	<p>今年度は教育課にスクールソーシャルワーカーが2名配置されている。今年度さらに1名増員して3名体制にしたかった。しかしながら、資格を持っていれば誰でもいいという訳ではなく、地域とのつながりがあり、経験等からソーシャルワークができなければ、子どもへの支援ができないため、現在増員できていない。社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーは、地域に出て様々な人や地域資源とつながっているため、学校にも入り込んでもらい、困っている子どもの家庭を支援につなげる役割を担ってほしいと考えている。</p>
委員	<p>社会福祉協議会としても、生徒指導推進協議会にコミュニティソーシャルワーカーが出席するなどし、社会とのつながりがなくなっている、孤立している子どもを何か他につなげようとしている。</p>
事務局	<p>ぜひ協力をお願いしたい。その際、コミュニティソーシャルワーカーに任せてしまうのではなく、担任や生徒指導担当も含めて一緒にやっていたらと考えている。</p>
委員	<p>オルタナティブスクールとは何か。</p>
事務局	<p>公立でも私立でもない、子どもが集える新しい選択肢、居場所である。町内ではSubakoがある。</p>
委員	<p>宿題塾という、平日毎日午後3時から5時半まで、宿題をやっておやつを食べられる居場所をボランティアで実施している。20～40人くらいの子どもたちが参加しており、外国籍の子や中学生が来たりもする。多世代が集まるサードプレイスが町内にいくつもある。行政は居場所を広める協力等の支援をしてもらえるとありがたい。事情があり、宿題塾は5月で終了する。居場所が継続できないという事実はお伝えしておきたい。</p>
事務局	<p>フリースクールには大変お世話になっている。ただ、実際に通っている子どもに実態調査を行ったところ、身近すぎて町内には行きにくい、町外に通っているという事例もあった。一市町村だけではなく、知多地域等の大きい枠組みで対応すべきだと愛知県に要望している。</p>

委員

教師を退職してから教育相談員を 5 年間やった。そのときに死にたいという相談もよく受けた。小学校に上がるにあたって普通学級でやっていけるのかという相談もあった。そういう時に相談できる人がいると、気持ちが救われるということを実感している。今日、ソーシャルワーカーの話を聞いて安心した。

以上で会議終了